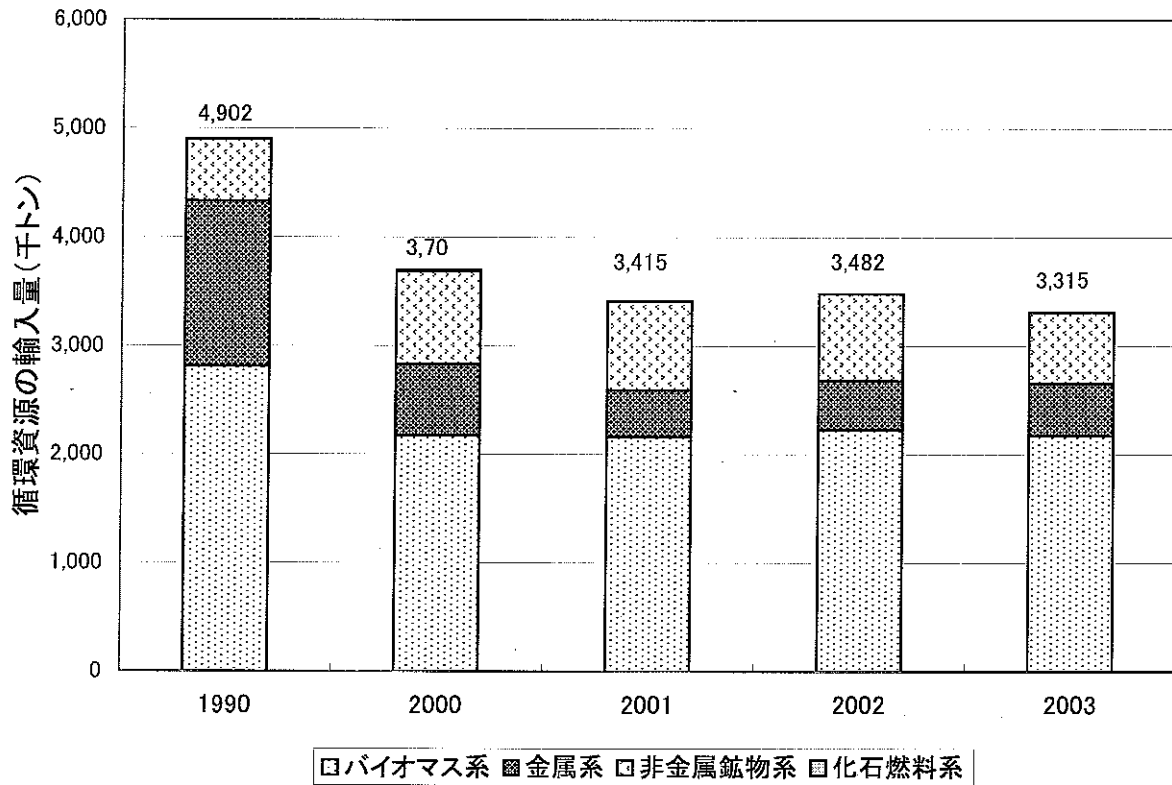


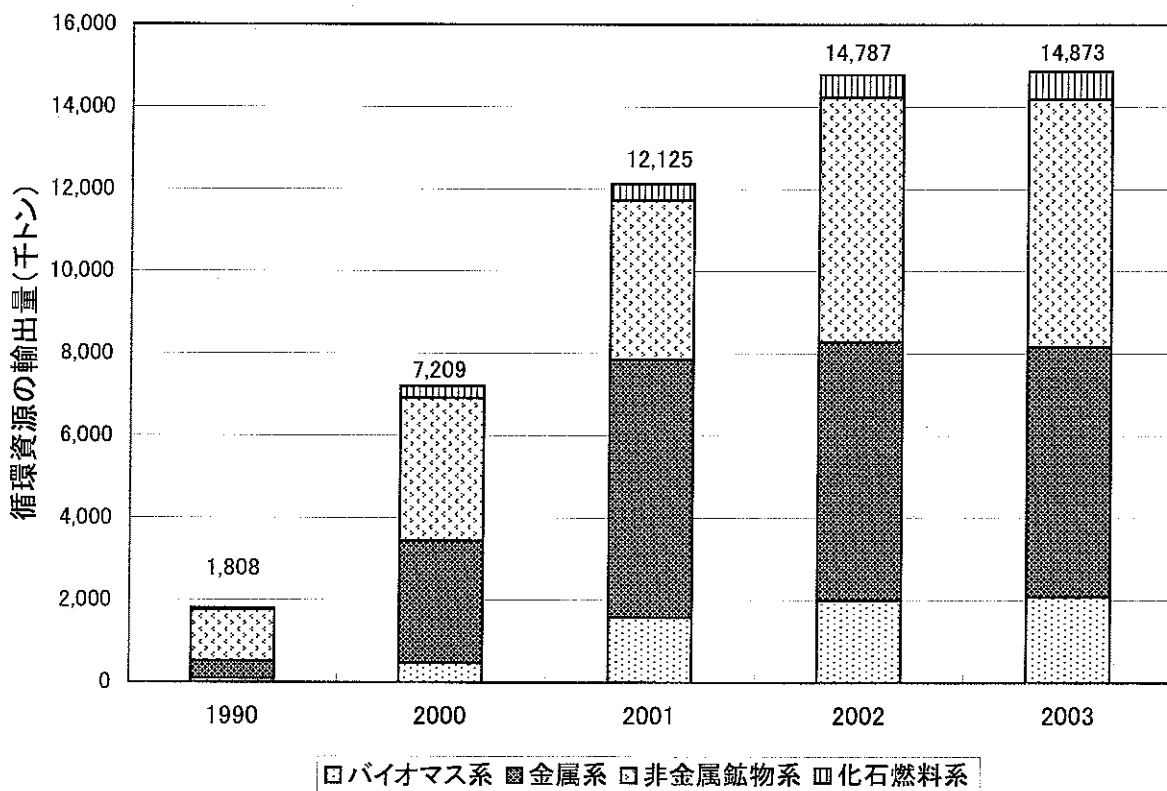
循環資源の輸出量の推移について

1. 循環資源の輸出入量 1頁
2. 鉄くず・古紙の輸出量の推移 2頁
3. 物質フロー及び物質フロー指標（確報） 3頁

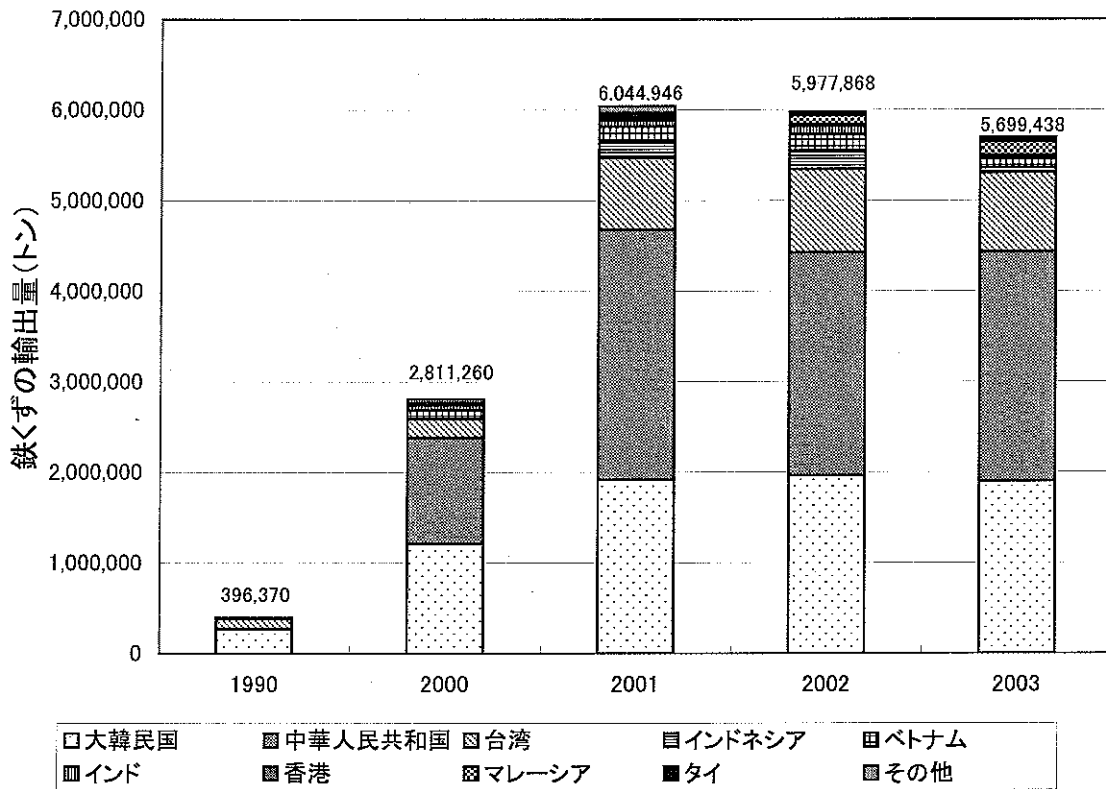
循環資源の輸入量



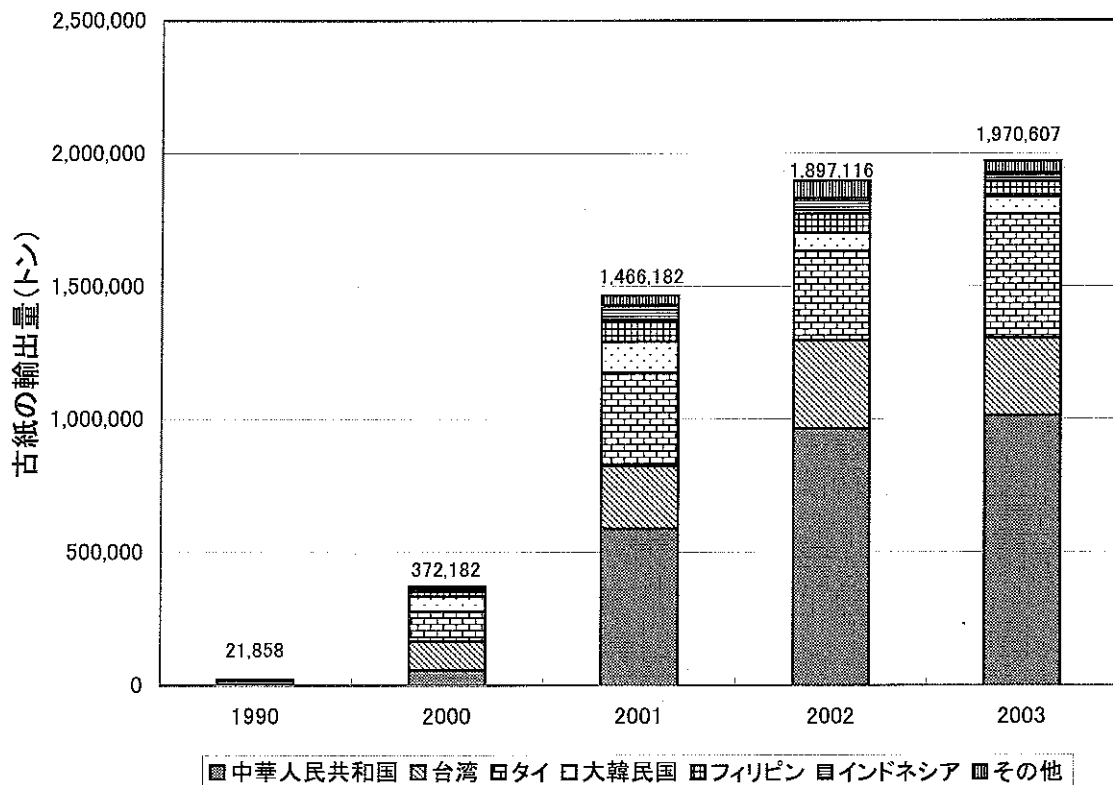
循環資源の輸出量



鉄くずの輸出量推移



古紙の輸出量推移



物質フロー及び物質フロー指標（資源生産性、循環利用率、最終処分量）

1 我が国における物質フロー

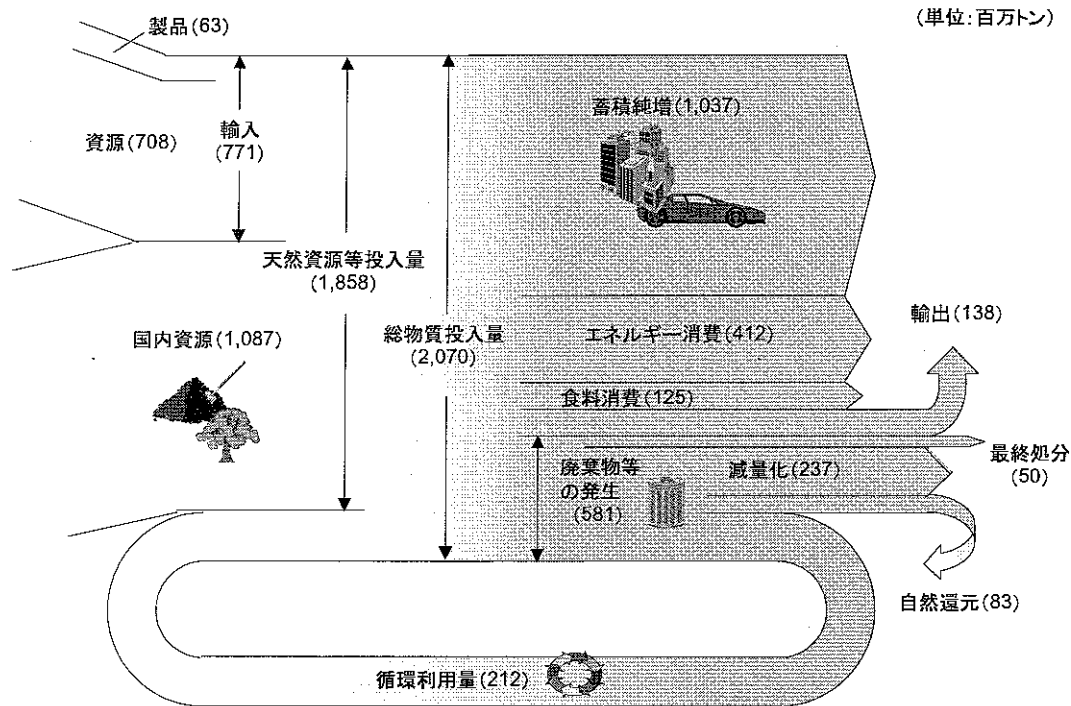


図 1-1 我が国における物質フローの模式図（平成 14 年度）

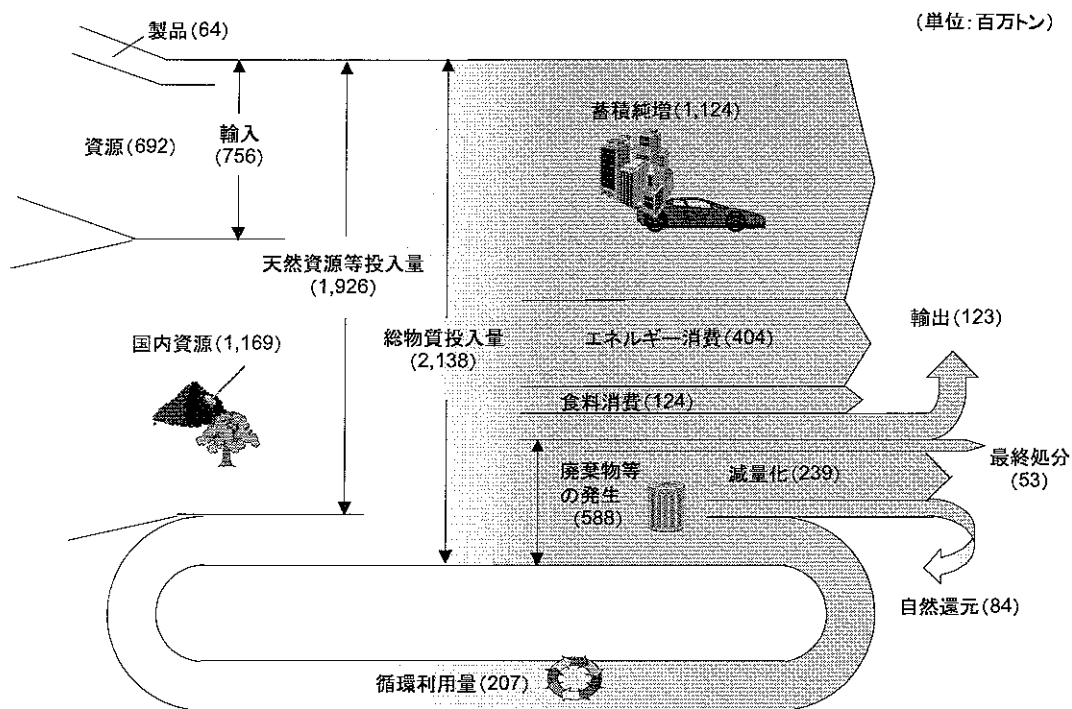


図 1-2 我が国における物質フローの模式図（平成 13 年度）

注) 産出側の総量は、水分の取り込み等があるため総物質投入量より大きくなる。

2 3つの指標の推移

(1) 「入口」：資源生産性（＝GDP／天然資源等投入量）

資源生産性が約 27.6 万円/トン（平成 13 年度）から約 28.9 万円/トン（平成 14 年度）に増加。

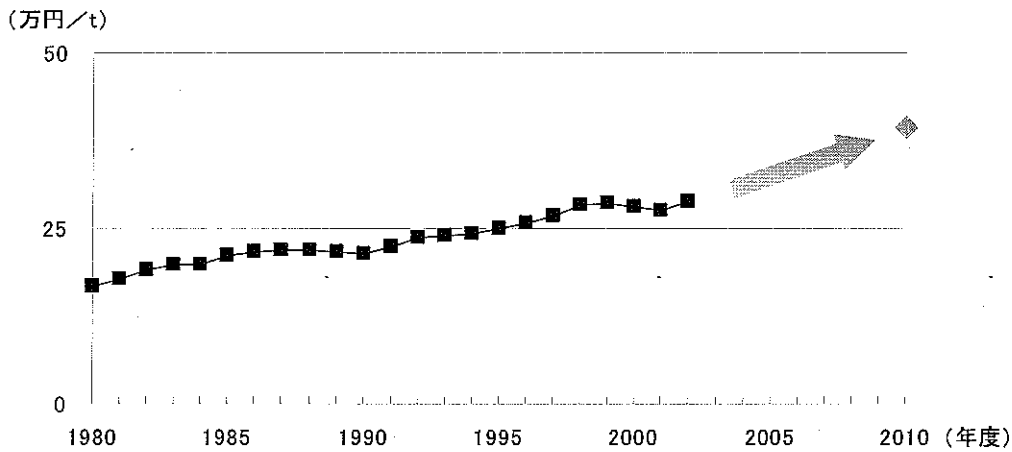


図 2-1 資源生産性の推移

【目標】資源生産性を平成 22 年度において約 39 万円/トンとすることを目標とします（平成 2 年度《約 21 万円/トン》から概ね倍増、平成 12 年度《約 28 万円/トン》から概ね 4 割向上）。
（出所：循環型社会形成推進基本計画）

(2) 「循環」：循環利用率（＝循環利用量／（循環利用量＋天然資源等投入量））

循環利用率が約 9.7%（平成 13 年度）から約 10.2%（平成 14 年度）に増加。

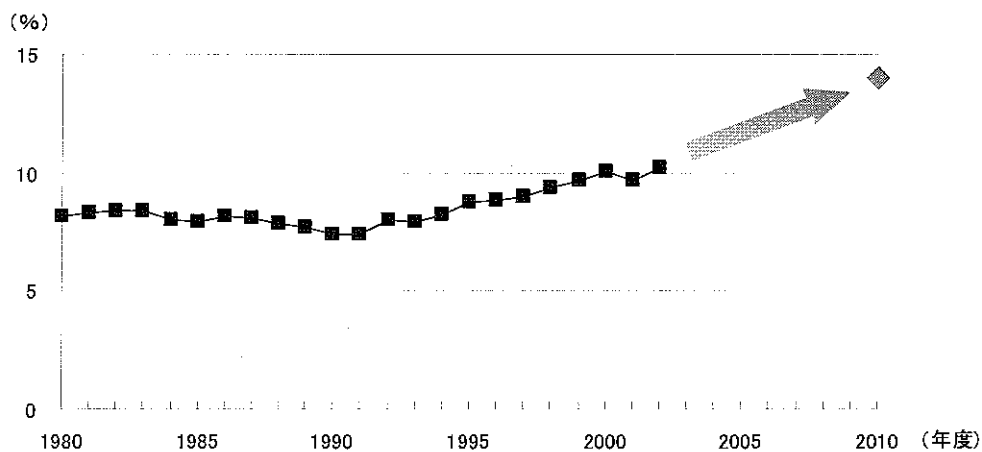


図 2-2 循環利用率の推移

【目標】循環利用率を平成 22 年度において、約 14%とすることを目標とします（平成 2 年度《約 7%》から概ね 8 割向上、平成 12 年度《約 10%》から概ね 4 割向上）。
（出所：循環型社会形成推進基本計画）

(3) 「出口」：最終処分量

最終処分量が約 53 百万トン（平成 13 年度）から約 50 百万トン（平成 14 年度）に減少。

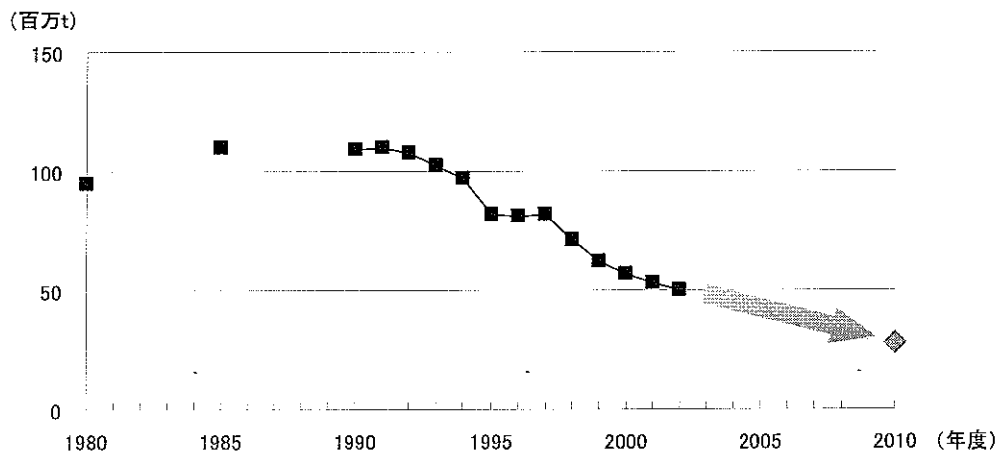


図 2-3 最終処分量の推移

【目標】最終処分量を平成 22 年度において、約 28 百万トンとすることを目標とします（平成 2 年度《約 110 百万トン》から概ね 75% 減、平成 12 年度《約 56 百万トン》から概ね半減）。
（出所：循環型社会形成推進基本計画）

3 天然資源等投入量の内訳

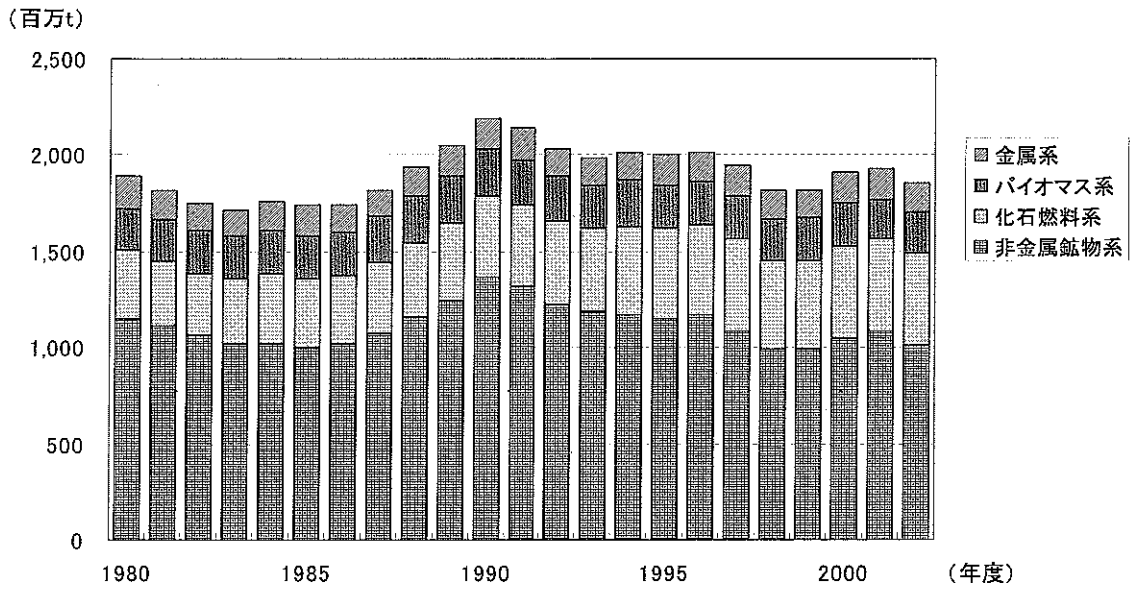


図 3-1 天然資源等投入量の資源種別内訳

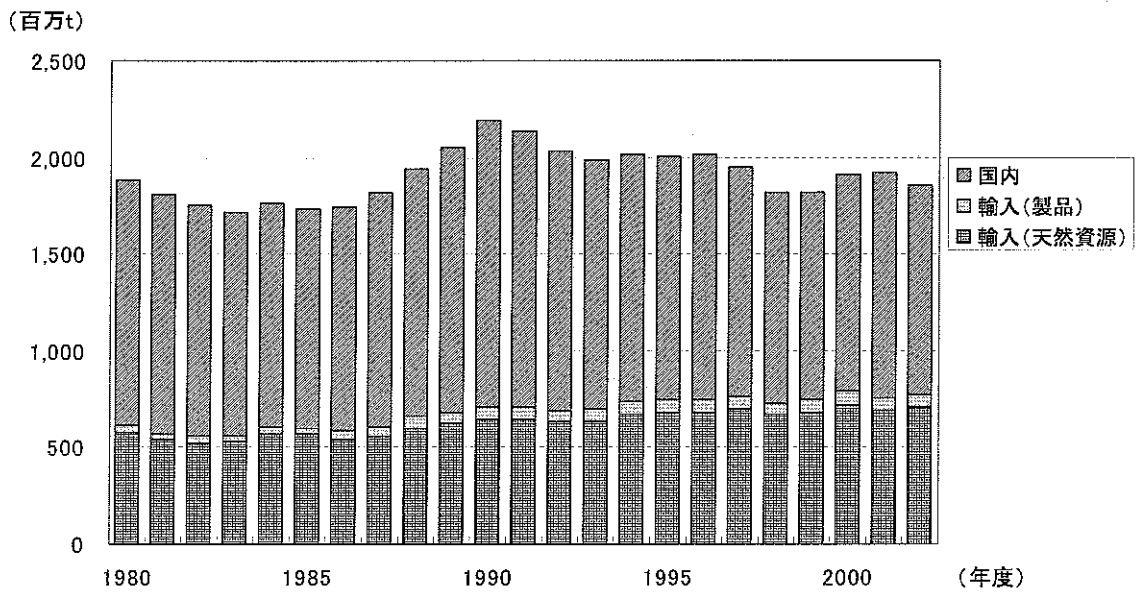


図 3-2 天然資源等投入量の国内採取・輸入（資源・製品）別内訳

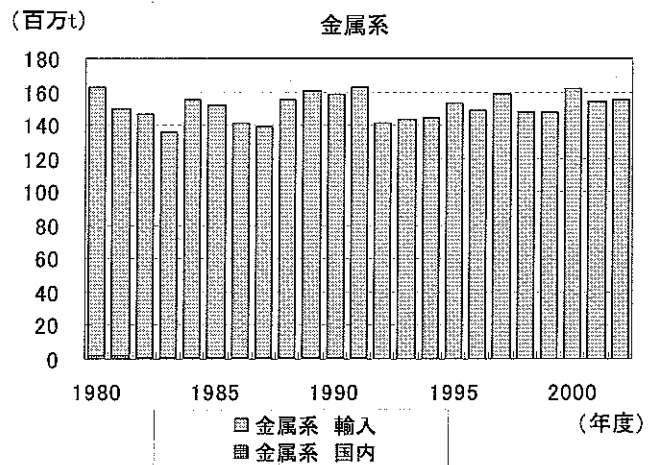
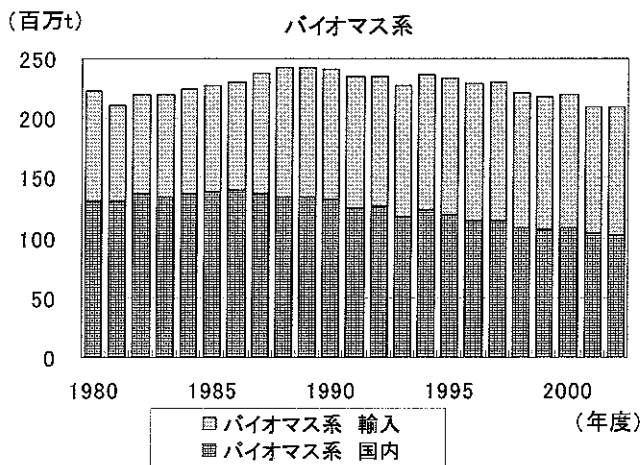
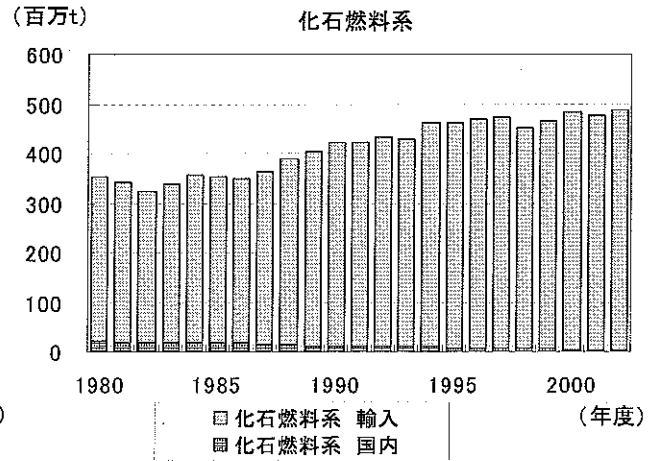
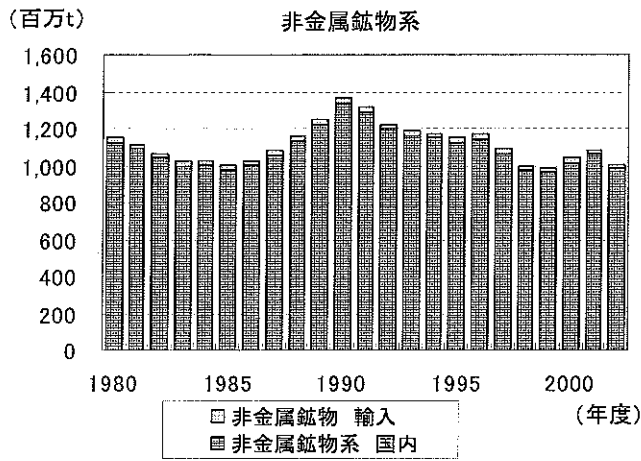


図 3-3 天然資源等投入量の国内採取・輸入（4分類）別内訳

●循環利用率の修正変更

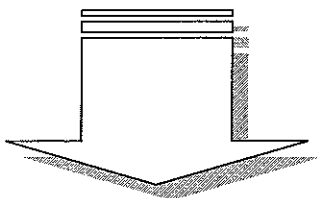
※循環利用量（金属：「すず」の単位kgを千トで換算。）

		H2年度	12年度	13年度	14年度
		1990	2000	2001	2002
循環計画 (最新版)	循環利用量(国内)	175,270	212,780	206,960	211,788
	天然資源等投入量	2,190,371	1,912,084	1,925,811	1,858,404
	循環利用率(新)	7.4%	10.0%	9.7%	10.2%
	循環利用率(旧)	7.6%	10.2%	9.9%	10.2%
循環利用量(旧)		179,706	218,194	211,749	211,788

単位：千ト

(新 目標値)	平成22年度(7.4%)から概ね8割向上	13%
	平成12年度(10.0%)から概ね4割向上	14%
(旧 目標値)	平成22年度(7.6%)から概ね8割向上	14%
	平成12年度(10.2%)から概ね4割向上	14%

【旧目標】 循環利用率を平成22年度において、約14%とすることを目標とします。
(平成22年度《約8%》から概ね8割向上、平成12年度《約10%》から概ね4割向



【新目標】 循環利用率を平成22年度において、約14%とすることを目標とします。
(平成22年度《約7%》から概ね8割向上、平成12年度《約10%》から概ね4割向